

Vol.22
静岡文化情報
街かど

MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団

草薙 周辺

あの日あの時
路地裏散策



特集
草薙ネット
コラム
毎日カワオーケラリーのまち
静岡県立大学教授・草薙ネット編集長
小嶋茂氏

Information

(財)静岡市文化振興財団インフォメーション

静岡音楽館AOI

Hotひといきコンサート

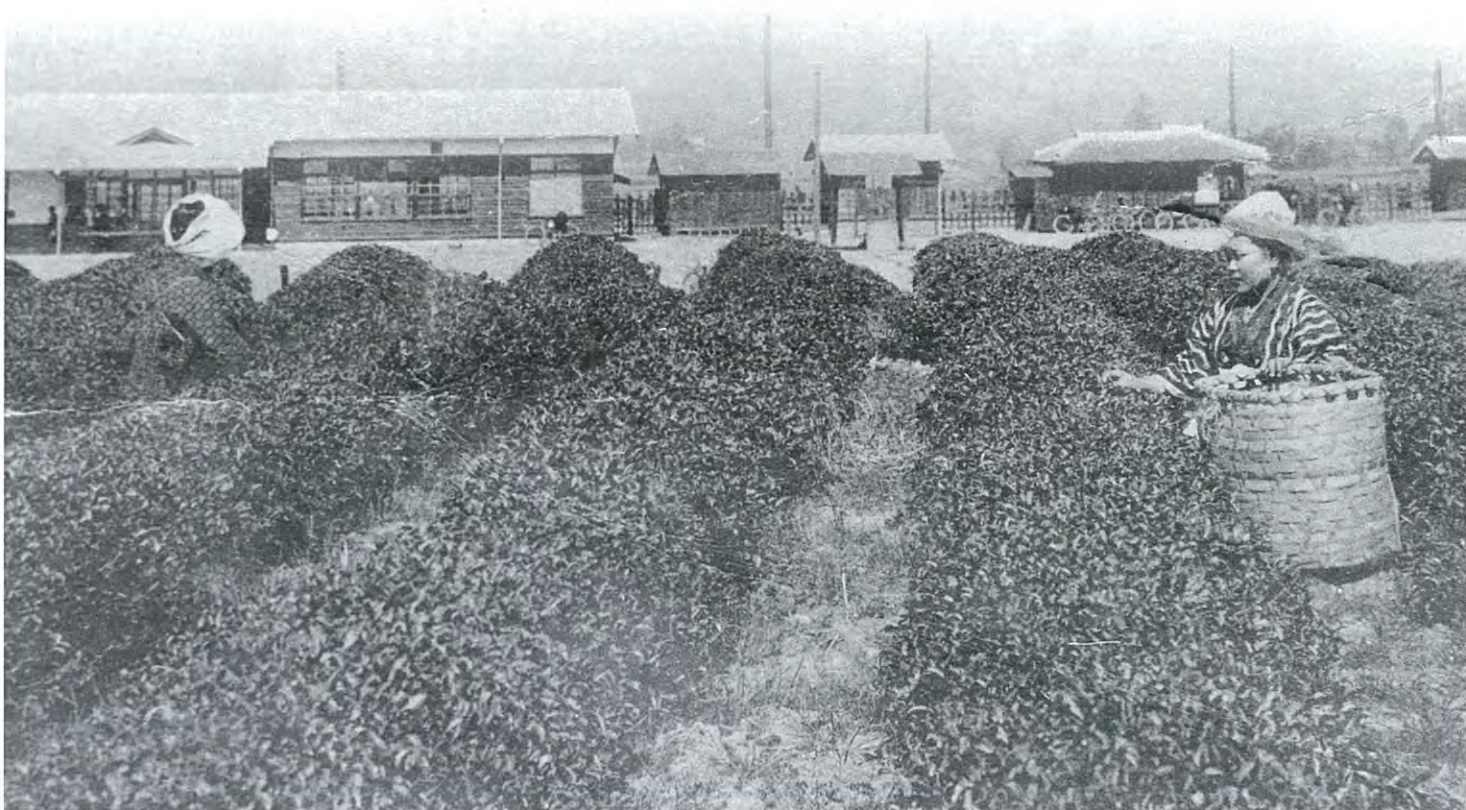
茶畑・松並木、緑の中を通る東海道の今昔…。

ああの草薙 のの時日

一昔前の草薙といえば、民家はとても少なく、一面の茶畑と松林の風景ばかりが浮かんでくる。

今では笑い話だけれど、昭和30年頃まで草薙には、なんと肉屋がなく、いるかを肉だと思って食していた。誤解のないように言っておくが、静岡市街には、肉屋は何軒もあったし、ロースハムなども売っていたから、もう肉が庶民の口に入らない時代ではなかった。当時の草薙には、魚屋が3軒、料理屋が1軒あっただろうか…。

とはいえ、昭和15年頃、旧東海道沿いに「享楽座」という芝居小屋らしきものがあったのを覚えている。子供は足を運ばない場所だったので、どんな芝居がかかっていたかわからないが、小屋の名前はなんとも怪しい…。



大正15年 草薙駅付近の茶園



戦時中の草薙神社 有度六区すもう大会



昭和18年 南幹線のあたり。後は鳥坂山と亀爪



昭和18年 旧東海道 松林がつづいている。



昭和32年 国体 旧東海道のあたり



昭和40年 桜井戸駅付近
県立美術館前—草薙駅の間に「桜井戸駅」はあった。

旧東海道といえば、昭和40年代、自動車が走り始めると、他に広い道がないので、自動車の行き来がはげしく、石を跳ね上げ、商店のガラスは何度も割れてしまったものだ。また、草薙は坂が多く、家一軒ほど高さの違う道もあった。旧東海道沿い旧静岡市と清水市の境には閻魔寺という寺があり、そこに祭られた閻魔様は霊験あらたか、寺の前を通ると、どんな武将も落馬してしまう。そこで、閻魔様の体内仏を背中向きにしたところ落馬することがなくなった。そんな言い伝え

があるが、これも閻魔様の霊験というより、その辺りが激しい坂道であったからだと推察する。何しろ、現在の静鉄県立美術館前駅の辺りから呉服町まで自転車ですぐ行けるほどの下り坂だったのだから。

坂を上って、現県立大の周辺には茶畑が広がり、四つ溝の柿の木がたくさんあった。四つ溝の柿の木は渋柿だが、枝振りが細やかにうねっていい風情だった。その後ろの山には、ささ百合やりんどうが咲いていて、とても美しかった。

しかし、戦時中、現県立大の辺りに、豪が作られ、上陸してくる敵と戦うつもりで国道1号に向け、大砲や機関銃が設置された。現在も県立大の下にはこの豪があるはずだ。また、国道の北側では、人間が爆弾を抱えて敵に飛び込む訓練をしていた。何とも痛ましい時代だった。

話は尽きない。草薙は、古墳も多く、日本武尊をはじめ、伝説もたくさんある。ここは、歴史や伝説、不思議な話に事欠かないなかなか面白い土地なのである。

変わりゆく風景

明治41年から大正9年まで鷹匠・清水波止場間を「軽便」と呼ばれる煙突のついた小型の機関車が走っていた。大正9年からは鉄道が電化され、「ちんちん電車」と呼ばれる電車が走った。



昭和初期 現清水第七中学校の西側を走る電車



昭和40年頃同じ場所

草薙路地裏散策



a. Café de Agora (カフェ・アゴラ)

店先に緑が揺れ、来る人を心地よく迎えてくれる。「Agora」は、ギリシャ語で「広場・市場など人の集まる場所」。

店内は市内在住の画家の作品が展示され、ちょっとしたギャラリーになっている。「これからは、絵に限らず、雑貨やお菓子など手作りの物を展示即売していきたい。作家さん募集中」だそうです。

一杯ずつ入れるコーヒー、油を使わないカレーやポトフもおいしい。店には80代、90代のお客さまも訪れ、皆ホッと一息ついていく。



b. 餃子のおじさん

JR草薙駅前餃子屋さん。おじさんに写真を撮らせてもらうため、「あやしい者じゃありません」と名刺を差し出すと、「俺が一番あやしいよ」とかえってきた。でも、おじさんの餃子はとてもおいしかったです。

ここで、餃子売り始めて4年。草薙駅の番人のような。



c. Little Stone (リトルストーン)

主にストリート系の服を扱うアティック「Little Stone」。木製の看板に惹かれ、中に入ってみると、ガラスケースの中にビニール製のお人形がズラリ。見れば、かなりの年代物もあるようだ。これは以前、古着屋を開いていた時、アメリカへ古着の買い付けに行き、一緒に購入してきた物。懐かしくて、かわいらしいこの人形たちは、残念ながら非売品、店をポップに彩っている。

お店は、シルバーアクセサリーも充実。スタッフ手作り、色鮮やかなこの毛糸のぬいぐるみも楽しい。



e. 日本風の会 浅井博さん

「予科練にいたことがあるので、空にあこがれがあるんです」。そう話すのは、「凧先生」と呼ばれる浅井博さん。浅井さんといえば、作り手のいなくなった旧井川村の「井川扇凧」の復元に成功したことで有名だが、その凧作りのルーツは、有度公民館長時代に開いた凧教室にある。凧に興味のある浅井さんは、奥様を教室に参加させ、その作り方を伝授してもらった。そして、役所を退職すると本格的に凧作りを始め、今や公民館、小学校、老人会などの凧作り教室の講師に引っ張りだこだ。

浅井さんの凧は、地元になんだ次郎長凧や龍勢凧、サッカー凧の他、立体のかめ凧やまとい凧など実に様々。「飛ばなければ凧ではない」が持論の浅井さんは、それらの凧を持って、北海道から九州、全国津々浦々の凧揚げ大会へ奥様と出掛ける。奥様は、凧作りの大事なパートナーだ。浅井さんの揚げた凧を写真に収め、浅井さんはその写真をもとに凧を修正する。合格した凧にはご自分の名前から「飛

呂志」、「調子よく飛ぶのを志す」(「呂」は「調子がいい」の意)という意味の印が押される。大会では、浅井さんの凧が面白いと、人が集まり、各地の人との交流が始まった。また、本に紹介された「井川扇凧」を見て、カナダから凧好きが訪ねてきた。浅井さんの周りは、大空を舞う凧のようにゆるやかに広がっている。



大空を舞う次郎長凧



井川扇凧

d. 子供の本専門店 ピッコ

26年間、子どもの本を専門に扱っている本屋さん。ご主人の伊藤俊男さんが長年の経験で培った目で選んだ本が店内に並んでいる。商品の入れ替えが早い一般の書店と異なり、昔から読み継がれてきたいわゆるロングセラーが中心。だから、「いつ来ても“あの本”に出会える」。

2年ほど前からインターネット上で古書を扱い始めたそうだ。子どもの本の古書を専門的に扱うのは国内では珍しい。欧米では、れっきとした古書市場があり、ネット上に掲載した本についての客観的な情報を提供しているそうだ。日本でもネット書店は存在するが、本の状態を評価する基準や表現がまちまちで、購入の判断に困ることが多いとのこと。伊藤さんはこういった現状を危惧し、自らのネット古書店では商品を的確に評価し、情報を最大限に提供しようと考えている。これはたいへん手間のかかる作業であるが、将来に向けて信頼を得ていくには必要なことと伊藤さんは考えている。

こうして掲載された本は日本全国から注文がやってくる。時には、海外在住の日本人から注文が入ることもあるそうだ。親が子どものためというケースばかりでなく、「子どもの頃読んだ本をもう一度手に入れたい」という大人からの注文も少なくないという。そういう人達は注文した本への思い入れが強く、その本が手元に届くと“再会”の喜びを電子メールで伝えてくるそうだ。

伊藤さんは本の販売だけでなく、子どもの本に関する催しも積極的に行っている。これまでも講演会や絵本の原画展を企画してきた。また、「ピッコ新聞」を月刊で発行し情報発信している。この他にも、毎月1回第4土曜日に「ばあやのおはなしかご」という読み聞かせの会を開いている。本離れが進んでいるという今日この頃、子どもだけでなく大人たちもこういった催しに気軽に参加してみたらどうだろうか。



ご主人の伊藤俊男さん



d. MBM
(ミサキバイシクルメカニカ)

マウンテンバイクとロードレーサーを主に扱っているお店。気さくなオーナーは自らレースに出たり、富士・静岡間を自転車で走るほどの自転車好き。とても楽しそうに自転車のことについて話し、愛情を持って自転車に接している。そんなオーナーは、レース用から街乗りのオシャレな自転車まで幅広く提案してくれる。ぜひ、女性にも本格的な自転車に乗って自転車を楽しんで欲しいそうだ。

また、自転車好きが増えて欲しいとの願いから、ショップ主宰の自転車を楽しむ為のサークル活動もやっている。気軽に参加でき、初心者大歓迎だ。(10月から伝馬町に移転します)
<http://www.e-mbm.com/>



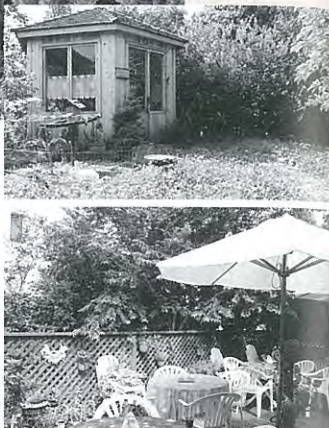
b. プチテラス 草薙館

鬱蒼と緑がしげり、一瞬、森があるのかと思わせる。お客様から「プチ・イギリスだね」の声が漏れる。

プチテラス草薙館のカフェでは、そんな庭を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

この庭には、十種類以上の野鳥が訪れ、中には五位鷺の幼鳥や尻赤鷺などの珍しい鳥もいたという。そして、そうした鳥たちの糞に入った種から櫟の木が育ったこともある。春にはプラムの木に白い花が咲き、冬には、木なり完全したレモンが採れ、カフェで、「採れたてレモンティ」がいただける。まさに「自然のなりわいを大切にしたい」だ。

夏、この庭で久しぶりに蝶々を見た。最近では、蝶々などいなくなってしまうと思っていたが、オーナーの堀場滋雄さんは、「目が行く余裕と関心を持つと見えてくるものですよ」と教えてくれた。



あひるの「がっちゃん」
テレビにも出演したことがある。



c. 古宮と鳥居の話

南幹線沿いにある静岡信用金庫の裏、信用金庫とマンションの間に挟まれて、ひっそりと建っているお宮がある。「古宮」と呼ばれるこのお宮は、天正18年(1590)まで草薙神社がここあった名残だという。

草薙神社は、天正18年、官家(徳川家康公)の命で現在の場所に移されたらしく、神社の一番古い棟札に施主として徳川家康公の名前が記されている。神社が移されると、そこへ向かう道が二つでき、その道の入り口にそれぞれ鳥居が置かれた。どちらも旧東海道(現南幹線沿い)にあり、寛政5年(1793)に現清水第七中学校の手前に置かれた鳥居を「東大門」、寛政7年に現さくらタクシーの辺りに置かれた鳥居を「西大門」と呼んだ。この東西大門から草薙神社へ向かう参道は神社手前で、一つに交わり、そこを「下馬」と呼んで、どんな位の高い人も馬を降りなくてはならなかった。また、東大門からの参道には両側に杉並木があり、現在も「草薙杉道」の地名が残っている。

ところで、過去には、日光杉道(日光東照宮の杉道)と呼ばれるように、重要な神社に杉を植える傾向があ



▲古宮

▲草薙神社通り入り口の石鳥居

つたという。また、徳川家康公もこの地を視察したというから、当時、草薙神社が重要視されていたことが伺える。

さて、大正初期、東西参道の間に現在の草薙神社通りができると、東大門の鳥居は、通りの入口に移され、その後、昭和50年、静岡土地区画整理時に、草薙神社の裏手へと置かれることになる。西大門の鳥居は戦中の金属回収で徴収された草薙神社の鳥居に代わり、草薙神社正門に置かれ、今に至っている。

ちなみに、現在草薙神社通りの入り口に構えられた石鳥居の横に市指定文化財の道標があるが、これは、元禄12年(1699)、西大門の近くに置かれたものだそうだ。鳥居も道標も草薙の変遷を見守りながら、転々と居を移していったのである。



d. Cocopalms
(ココパームス)

Cocopalmsとは「ココヤシの木」という意味。開店当初は清水にお店を構えていたり、マスターがウインドサーフィンをやっていたことから、南の島のイメージにしたいと思い、映画「ブルーハワイ」に出てきたホテルの名前にちなんで付けられたそうだ。

料理を大勢で取り分けて食事を楽しむスタイルがお勧め。きのこのピリ辛オイル焼「シャンピニオンのオイル焼」や「タコス」などマスターがこだわりをもって作る料理が人気だ。

店内には雑貨も販売しており、静岡市鷹匠にある「スパイス・スペース」で扱っている輸入雑貨や、「TAK TAK」のアーティスト大石貴子さんが作るビーズアクセサリーが並んでいる。

e. おりじなる工房



まあいい文字の看板が目を惹く「おりじなる工房」は額装専門店。絵画、ポスターはもちろん、皿、陶板、服飾品など何でも額縁の中に入れてくれる。ヴィンテージのジーンズの額装もしたことがあり、これは、お客様の意向で、ジーンズを裏表両方から見るように額縁の両面をガラス張りにし、中にジーンズを吊るすよう工夫した。「額の中に入れる作品の持っている雰囲気、どこへ飾るか? どういう風に見せたいか?」をお客様と相談し、安心して決めていただきたい

と店長の小長谷正明さんは話す。額の中に入れてほしいものを持っていけば、合う額を選んでくれるそうだ。さて、小長谷店長、本誌が文化情報誌であることに気づくと、「文化的に言えば」と前置きし、「作品は、額縁に入れて初めて人前に出せる。高いものでなくても飾れる状態にして一家に1つでも2つでも絵や写真があれば、人の心も和みます」と文化情報誌に合わせた額…もといコメントを選ぶサービスをしてくれた。

f. Déjà VU
(デジャヴ)

扉を開くとそこはイギリスだった。陶器、ガラス製品、ランプ、銀食器、アクセサリーなどの英国アンティーク小物が所狭しと並べられた店内は、優雅で落ち着いた世界が広がっている。

「アンティークショップ」と聞くと「敷居が高そうで入りにくい」というイメージがどうしてもしてしまうのだが、ここは違う。店員さんはとても気さくで、置いてある商品も普段使いできるものばかり。堅苦しくなく今までのイメージを払拭させるお店だ。しかし、フランクながらも気品溢れる空気が流れるのは、商品が持つイギリスの風が伝わってくるからではないだろうか。

店内に置かれている商品は、スタッフがイギリスまで買い付けに行き仕入れて来るので、一つ一つ目になかった確かな1点ものばかり。お値段も比較的手の届きやすいものが多く、その価格と品揃えに惹かれ東京など遠方からお客様が来るそうだ。特に気になった物は香水の瓶。小さな瓶に手の込んだ細工がしてあり、思わずうっとりとしてしまった。ちなみに、家具やステンドグラスなどは池田店で取扱っている。

また、和を含むアジアのアンティークを揃えた「古民芸こっまく堂」が3階フロアで開かれている。電話予約でのみオープンしているが、秋からは新たにお求めやすい物がデジャヴの一角で展開されるそうだ。職人が1つ1つ作り上げた歴史のあるものを生活の中に取り入れて、心に余裕と豊かさをもたらしめるのはいかが? <http://www.de-ja-vu.biz>



g. Atelier SANGO
(アトリエサンゴ)

昨年7月にオープンしたばかりのアトリエサンゴは気軽にアートの世界に触れることのできる場所。

オーナーは、地元草薙育ちの浜口ゆうりさんと神戸出身の川内ゆうじさん。東京での創作活動を経てここ草薙を活動の拠点とする。ショップとアトリエ、ギャラリー、ワークショップの3つをテーマに、多方面からアートを発信していきたいのだと言う。



こぢんまりとした店内には、オーナー自ら手がけた作品をはじめ、全国から集められた雑貨アーティストのオリジナルポストカードやカレンダー、陶器などがディスプレイされていて、小粒ながら味があるといった感じ。

また店の奥のスペースは工房になっていて、そこでは「図画工作教室」を行っている。「たくさんの方にモノを“作る”楽しさを味わって頂くことができたら」とオーナーが言う通り教室生には、幼稚園児から大人まで幅広く、オリジナルキャラクター作りを精進しているとのこと。

サンゴオリジナル作品の特徴は素材にあり、特殊粘土(通称ふわふわねんど)で形を成すそれらは、柔らかい質感とぬくもりを感じさせる。そんな作風が醸し出されたアトリエサンゴは和みの空間となっている。

d. 珈琲&お食事 おらんだ屋

「和食がやりたくてお店を開いた」というオーナー得意の日替わり和定食が人気のお店。他にもインド人シェフ直伝のレシピをアレンジした玄米ごはんのカレーライスや、深炒り豆で丁寧に入れたコーヒー、手作りのケーキが楽しめる。座り心地のいい椅子に掛けると時間を忘れてしまうほどゆったりと時間が流れている。



b. やぶきた原樹

「やぶきた」は安政4年、ここ有度村に生まれた故杉山彦三郎翁が選んだもので、収葉量と製茶品質にすぐれ、全国的にも有名。この原樹は、たまたま竹藪の北側にあったので、「やぶきた」と命名された。

■静岡県指定天然記念物



やぶきた原樹

草薙考古学 古墳のはなし

草薙の古墳は、有度山を取り巻くように点在している古墳群の一角にあたり、中で一番古いものは、西の原古墳群の1号墳で、5世紀末のものと考えられる。これは、ひょうたん塚公園の中にあり、前方後円墳の形がひょうたんに似ていることからひょうたん塚古墳と呼ばれている。2号墳は、6世紀前半の円墳で、セブンイレブン草薙店のあたりにあった。



谷田古墳群から出土した須恵器

他にも、権現前古墳、東護古墳群、草薙神社後方古墳群があり、東護古墳群からは、七鈴鏡や大刀、馬具なども出土している。また、谷田には、谷田古墳群がある。特に宮の後公園内にある宮の後古墳は、6世紀末のもので、横穴式石室から直刀、須恵器、土師器が出土した。この古墳群は全体で50基以上もある古墳群で、東光禅寺から県立美術館ロダン館の後へと続いている。

有度山周辺の古墳は、5世紀末から7世紀のもので、歴史的には、大陸文化や仏教が伝わり、聖徳太子が活躍、そして、律令制が確立していく時代だ。ひょうたん塚古墳には、「日本武尊に従った吉備武彦の子孫、意加部彦がイオハラ國の国造となり、この地方を支配したと言われ、この古墳に眠るのは何代目かのイオハラ王の一人と推定される」と説明されている。かつて、草薙に生きた人たちはどんな人たちのだろう。想像することは楽しい…。

余談だが、土木工事の際に、草薙、谷田、駒越、北矢部の赤土の中からナウマン象の牙や日本昔鹿の角が見つかった。有度山の山頂、日本平遺跡からは、先土器時代末期の石器類が出土し、早い時期から人々が生活した跡がうかがえる。



古代の水筒
ひもをかける取手がある

C. 首塚稲荷神社

草薙には、草薙神社をはじめ、日本武尊にまつわるいろいろな場所がある。その中で、少し不気味なのが、「首塚稲荷神社」だ。ここは、日本武尊とこの地で戦った地方部族の首が埋められているといわれ、この神社の北側を流れる川を「血流川」といい、戦いで流された血が川を染めたといわれている。「首塚稲荷神社」は、有度第二小の南側、こんもり高くなった丘の上にあり、社殿は、坂を登り、いくつもの

赤い鳥居をぬけた薄暗い森の奥にある。かつては、髪の毛が奉納され、そして、ここには、神社に多い樟や椎の木がなく、榎の木が多いという…。話が少し怪談じみってしまったが、社殿のとなりには民家が見えているので、安心して足を運んでほしい。ちなみに、この神社は、梶原景時の名馬「磨墨」の首が飛んできた場所、また、今川家のお世継ぎ問題で戦がおこり、その戦死者の遺骨を弔った場所ともいわれている。

草薙民俗学

東護の森

もう一つ書き記しておきたいのが、「東護の森」である。「首塚稲荷神社」の西側にあったこの森は、日本武尊が東国平定を伊勢大神に祈願した場所だという。ここは、古墳でもあり、少し前までりっぱな榎が目印だった。また、20年位前までは、山の神様を祭り、50センチほどの小さな弓がたくさん飾られていた。この小さな弓を飾る風習は、草薙奥の人たちだけが行っていただけのもので、それについては、つづけ丘在住の伊藤弘さんが「毎年、正月を過ぎると草薙川の土手から女竹を切ってきて、弓矢とお神酒すず(お神酒の入れ物。2つの竹筒が竹の皮でU字型につながっている。)を作り、1月20日にこの2つと、正月の輪飾りと餅を持って、今年の山仕事の安全と山の作物の豊稔を山の神様に祈った。この日は山に入ることが禁じられていた。どこの家にも簡単な山の神様が祭られ、多くは榎の下に榎の木などを御神体として祭った。小さな祠のある家もあり、小さな古墳を祭った家もあった」と記録をまとめておられる。

この他にも、日本武尊が松を敷いて休息した「御座松の森」(草薙神社裏)、景行天皇が休まれた「天皇原」など様々な地名が残っており、草薙という土地の奥深さを感じさせる。

首塚稲荷神社



有度第二小学校

こんな祠を祭る家もあった



アパートの前にせなか龍勢の模型

草薙神社通り



庚申塔

草薙川

冷泉寺

セブンイレブン

静岡県立大学

ミニストップ

熊野三桂神社

東光禅寺

「だいだらぼっちの夢」

「HOMME(男)」

東名高速道路

美術館通り(並木通り)

南幹線

至富士

20年位前の東護の森

草薙神社

草薙川

草薙神社

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

草薙川

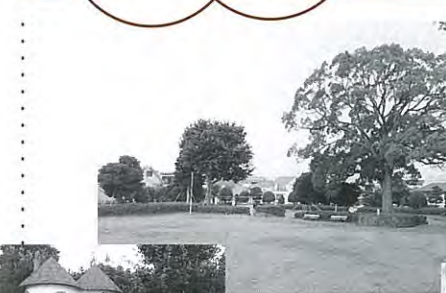


草薙は坂と緑が印象的な街。そして、その随所に公園がある。県立美術館の近隣だからか、それぞれの公園にアート作品が置かれたり、アートと呼びたい楽しい建物や遊具がある。

I. 中吉田公園

静鉄県立美術館前駅裏の公園。(マップ▶4ページ)

Art 赤ー亡ほいれ亡
広々とした敷地、空に向かってまっすぐに伸びる枝振りのみごとな木。そして、メルヘン風のトイレ。



III. 天皇原公園

日本武尊の勲功の地をたずねるため、景行天皇が東国巡行した際に休息された場所。広々とした敷地で、子供たちがのびのび遊んでいた。

Art 赤ー亡ほいれ亡
かわいらしいエンピツ型のトイレ。



IV. 冷泉寺裏の小さな公園

草薙にはこうした小さな公園が随所にある。

Art 赤ー亡ほいれ亡
お寺の裏、ひっそりした雰囲気の中ゆれるブランコ…。



VI. 谷田宮の後公園

谷田古墳群の一つ、宮の後古墳がある公園。熊野神社とも隣接。

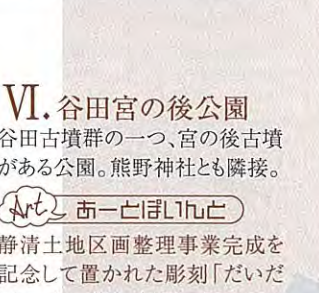
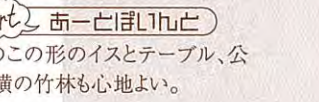
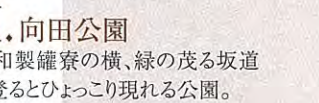
Art 赤ー亡ほいれ亡
静清土地区画整理事業完成を記念して置かれた彫刻「だいだらぼっちの夢」。伝説の巨人だいだらぼちは街を見守る。公園内には「HOMME(男)」と題された不思議な頭像もある。



V. ひょうたん塚公園

ひょうたん塚古墳のある公園。公園内に「ワールドトレイル」と名づけられたフィールドアスレチックがある。

Art 赤ー亡ほいれ亡
ひょうたんをイメージさせる「響」と題されたアート作品が置かれ、公園の欄もひょうたんがモチーフ。



「HOMME(男)」



a. 草薙神社

「日本武尊」を祭る草薙神社。鳥居をくぐると、鬱蒼と茂る木々に囲まれ、ご神木が迎える。ここは、神話の世界、外とは違う空気が流れる。

日本武尊は、東国平定に赴く途中、伊勢神宮へ立ち寄り、叔母の倭姫命から天叢雲剣を授けられる。この剣こそ尊のご先祖である須佐之男尊が八岐大蛇を退治した時、大蛇の腹から出てきたものだ。尊は、この剣を携え、東国を目指すのだが、途中、この草薙の地方部族に、原野に火を放たれ、焼き殺されそうになってしまう。しかし、尊が腰の剣を抜き、あたりの草をこごとく薙ぎ払うと風が変わり、猛火は部族の者へと向かい、尊は難を逃れ、この地を平定することができたのである。

その後、この天叢雲剣を「草薙剣」と呼び、尊が草を薙ぎ払ったところを「草薙」と呼ぶようになった。

ロマンチックなので、日本武尊のその後を書き添えておきたい。再度出陣した尊は、不運にも毒蛇に噛まれて世界してしまふ。しかし、尊の遺体を納めた棺から一羽の白鳥が飛び立った。尊は白鳥になったのだ。驚いて人々がその後を追うと白鳥は、しばらく熱田の峰（愛知県名古屋市内）の松に翼を休め、遙か西の空へと飛び立っていった。尊の死を悼み、白鳥の休んだ松の跡に尊の遺品を納めたのが、熱田の白鳥塚である。また、草薙剣は、その後、天武天皇の命で、熱田神宮に納められた。

神話の世界は、はるか遠い。しかし、この草薙神社を訪れたら、日本武尊の伝説に思いを馳せ、神話の世界に浸ってみてはいかがか。身近にこんなすごい神話が残っているのだから。

b. 萬千吉茶坊

草薙神社の大鳥居をくぐり、まっすぐ草薙神社へ向かい、途中のカーブにある赤い看板を左に曲がり、道なりに進むと「萬千吉茶坊」はある。道が少し狭いので注意。静岡と言えばお茶どころ。お茶に関してはちょっとウルサイよ、とおっしゃる方は必見。



首塚稲荷神社

有度第二小学校

80種以上の中国茶を取り揃えているこの茶坊。中国茶と言っても烏龍茶だけではない。緑茶、ジャスミン茶、紅茶なども中国茶。「中華人民共和国認定高級茶藝師」の資格を持っていらっしゃるオーナー・マネージャーさん自ら淹れてくれるお茶は、香りや味は勿論、見ているだけでも楽しい。そのお茶にあった淹れ方で淹れてくれるので、もちろん淹れ方はお茶ごとに違う。香りも楽しむお店なので、店内禁煙。愛煙家は注意。

静岡で中国茶、と言うのは何か特別な意味か?と聞いてみたら「たまたま実家がここに」と言うことで、特に静岡や日本茶を意識してそうした訳ではないのだそう。「ただ、お茶どころだけに舌の肥えた方やお茶に詳しい方のご来店も多く、刺激ややりがいがある」と話すマネージャーの勝又綾子さん。しかし茶どころとは言えまだまだ、「中国茶って何?難しそう」と感じる人も多いかもしれない。そんな人のために、中国茶の良さや楽しみ方をもっと沢山の人が知って欲しいとお店をはじめ、様々なところで中国茶講座も開いている。

ちなみに茶坊は誤字でもなければ茶坊主でもない。本場中国では「茶房」ではなく「茶坊」と書くのだそう。本場の中国茶とともに、のんびりゆったりとした時間を過ごす週末はいかがだろうか。



C. 団地工房ゆう

第二ふたば保育園

草薙団地

草薙団地の一番奥、一見するとなにかの作業場のようなのだが、掲げられた看板には「団地工房ゆう」とある。そう、ここは実は「工房」なのだ。主に草薙団地の住民が集まり、仲間同士で陶芸や竹千筋細工、はた織りなどを行っているそうである。もともと旧清水市経由で森林の管理を任される代わりに、その敷地を借り受けるという経緯で始まったこの工房。荒れ放題であった森林も今ではだいぶ整理され、はた織り小屋が建てられたり、色鮮やかな花壇が整備されたりしているが、一年目はほとんど草刈や伐採ばかりしていたそうである。

これだけの活動をしているにもかかわらず、特定の講師などもおらず、必要な機材なども閉鎖した工場から譲り受けてきたりと、基本的に全て自給自足であるところには驚かされる。まるで「トソーヤの秘密基地」と言った感じの工房ではみな生き生きとしていて、それぞれに得意なことを他の会員に教えたり、作ったりと実に楽しそう。現在会員は80名程度。

草薙神社

草薙川

草薙神社通り



依頼されて小学校と交流したり、教えたりもしているそうで、まさに生涯学習といった感じである。晴れの日ならばたいがい誰かいるそうなので、一度遊びに行ってみよう。気さくで優しい会員の方が迎えてくれる。ただし、やぶ蚊には注意。取材班も刺されまわりました。



草薙川

冷泉寺

セブンイレブン

d. 龍勢(流星)煙火

毎年、草薙神社の例祭(9月20日)前後に行われる龍勢。ロケット噴射でまっすぐ高く上がり、あがりきると仕掛けが吐き出され、落下しながら煙火と落下傘や鯉のぼりが舞うなどの仕掛けの変化を楽しませる。昼あがる煙火を「龍勢」、夜あがる煙火を「流星」と書き、「流星」は文字どおり流れ星のように夜空に火の流れが見える。

この煙火のルーツは、草薙神社の例祭が始められた元禄時代からとか、安政年間とか定かでないが、船越の「名主日記」に船越村の若者が文化13年(1816)7月に煙火をあげた記事が残っているから、草薙神社でも少なくとも180年くらい前から行われていたのではないかとされている。

ここに一つ面白い説がある。龍勢狼煙説だ。実は、草薙神社は、久能山東照宮の搦手の位置にあり、山道沿いに久能山と行き来することができた。ということは、草薙神社が久能山東照宮の防備に役かっていたのではないかと。江戸時代、幕府は、一般人に鉄砲火薬の製造所持を禁じていたが、

この草薙神社には狼煙煙火の作り方、あげ方を伝授し、有事に備えた。そして、その補助役の養成のため、村の主な者を集め、奉納花火として行っていたのではないかとされている。

その真偽はともかく、龍勢は、その歴史の深さと規模の大きさから、県の無形民俗文化財に指定され、また、その打ち上げ方法がロケットの原理と同じであることから、日本古来のロケットとして宇宙開発事業団からも注目された。

現在、龍勢は毎年、龍勢煙火保存会によって打ち上げられており、お盆の頃から、会員が集まり、熱心に準備をしている。保存会相談役の堀場弘さんは、「毎年、どんな仕掛けにしようか考えるのが、とても楽しい」と語り、堀場さんのお宅には色とりどりの龍勢の設計図が積まれていた。



昼は龍勢、夜は流星



e. 静岡県立美術館

今さら紹介するまでもなくその存在は皆さんご存知のことだろう。県立美術館は、ログンの作品を多数収蔵し、マヤ文明展や浮世絵風景画名品展など、優れた美術作品の展示をおこなう県下随一の美術館である。

では、この県立美術館が大掛かりで格調高い展示のほかにも様々な催しや展示をおこなっているのをご存知だろうか。

そのひとつが「自由工房」。これは、様々な用具を備えた実技室を広く一般に開放し、自由な創作活動をおこなってもらおうというもの。材料や技法についての相談もできるいたりつくせりのアトリエである。

また、「版画入門講座」「ログン館デッサン会」「子どもたちの粘土開放日」といった講座も行われている。絵画や版画の体験、子どもの粘土遊びなど

が気軽に楽しめる人気のイベントだ。

そして、「静岡New Art『わたしの居場所』展」。若手の現代美術作家の作品や活動を年間を通じて紹介するというものだが、ユニークなのはその会場。展示室ではなくエントランスや中庭などを作家自身が探し出して会場にするのである。そんな場所だから、もちろん観覧は無料。企画展の観覧に訪れた来館者が足を止めていくことも多いとか。

また、ワークショップなどで直接作家と触れ合う機会もある。現代美術作家との交流なんて、そうそう体験できるものではない。このあたりは、フットワークの軽い若手作家ならではの企画といえよう。

この「静岡New Art『わたしの居場所』展」、「現代美術展」などと大段に構えずに、「ふとふり返るとそこ



若手作家によるワークショップ

に現代美術の展示がある」というさりげなさを狙ったのだという。「格調高い企画展ももちろん大切だが、こういった親しみやすいのも大切にしたい」とは学芸員の堀切正人さんの弁。

美術館というと高尚で敷居の高い場所だと思いきもあるが、どうやらそれだけでもないようだ。予定のない日曜日あたりに、ちょっと行ってみるのもいいのでは?

緑に恵まれたプロムナードをログン館裏まで歩けば静岡市内を一望する絶景にも出会える。



静岡県立美術館

静岡県立中央図書館



プロムナードにいつもいる猫



入口の作品「アークII」ここから美術館は始まっている

f. 財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県立大学

気候が温暖な静岡県には、先人の生活を物語る遺跡が1万余カ所もあるそうだ。しかし、近年、急速な都市化や近代化が進むと、地域は急変し、土地に密着した埋蔵文化財も少なからず影響を受ける。静岡市内でも国1バイパス開発の折、埋蔵文化財が多量に出土した。

静岡県埋蔵文化財調査研究所では、主にこうした開発に伴って出土する埋蔵文化財の調査、研究や埋蔵文化財の保護思想の普及啓発を行っている。

こう書いてしまうとかなり学術的で固いイメージだ。もちろん研究所の中では、埋蔵文化財の調査や復元、発掘された遺跡の事細かな報告書の作成などが行われているのだが、その一方で、一般の人にも親しみやすく、埋蔵文化財の展示も行っている。テーマを決めて、時々展示替えされるこの展示は、平日の9時から16時30分までならだれでも見学することができる。また、発掘現場での説明会や出前授業も行い、毎年、夏休みには、子供向けの「古代体験教室」を開催している。研究所の庭に

火起こしや古代食体験、勾玉づくりや丸木船に乗るなど様々なコーナーが設けられ、古代人の生活を体験することができる。子供たちは、30分ほど石を磨きつけて作った勾玉を手には「楽しいけど、大変だった」と言い、栗や胡桃をつぶして作った古代のクッキーを首をかしげながら食し、古代人の生活を体感していた。

11月15日には、「静岡の現像をさぐる」と題した発掘調査報告会が清水文化センターで行われるので、興味のある方は、足を運んでみてはいかがだろうか。



ミニストップ



美術館通り(並木通り)

熊野三桂神社

東光禅寺



東名高速道路

特集 草薙 ネット



世代を超えたつながり。 街を結ぶもの。

JR草薙駅を出てすぐに、ユーモラスな犬の石像が目に入る。ロータリーの一角にあるこの像。存在を知ってはいるものの「なんで犬の石像?そもそも何でここに石像が?」と、内心気になっている人も多いのではないだろうか。

「考える犬」と書かれたこの石像は、静岡県立大学教授・小島茂氏が代表を務める「草薙ネット」が大学と地域を結ぶまちおこしのシンボルとして制作したものである。静岡県立美術館にあるオーギュスト・ロダンの「考える人」、それに忠犬ハチ公のパロディーでハチ公ならぬ「思考(しこう=四公)」だそう。なるほど、考える犬だけに思考。納得。

しかし、草薙ネットはこの考える犬の像を制作しただけではない。例えば草薙ネットは「草薙ネット」という同名の地域情報誌を発刊している。この情報誌は毎回独自の切り口で草薙地域情報、市内情報などを紹介している。実に様々な事を行っている「研究室」なのだ。



「我々の活動はアートのでもあるしスポーツ的でもある教育的でもあるが、いずれにしても実践的であることが一番重要なのです。」と小島氏は語る。確かに草薙ネットは地域や学校を巻き込んだイベントも精力的に実施しており、それらは非常に実践的である。その実践的な活動が目され、東海道400年祭に誘われたり、マスコミなどにも数多く取り上げられている。

今年六月にも草薙ネットは、フランス生まれのニュースポーツ「ベタンク」とウォークラリーが合体したイベントを開催した。このイベントは、草薙一帯に設置されたチェックポイントで様々なクイズや課題などをクリアする事を通して地域の人々と交流を深めつつ、ウォークラリーをし、その後ベタンクという子供からお年寄りまで楽しめるスポーツを楽しむというものである。



総合的な学習の時間で「We love 有度のまちづくり」という内容を勉強中、考える犬に注目したことから「草薙ネット」と出会ったと言う有度第二小学校の皆さん。彼らもこのウォークラリーに参加。大学生とペアを組んでJR草薙駅(考える犬像前)から県立大学まで歩いたそうである。普段知り合うきっかけのない大学生のお兄さんお姉さんと一緒にチェックポイントを回るのは、最初は照れくさかったけど貴重な体験になったようだ。

「大人と良いつながりを持ち、自分は社会や地域の一員なのだという心を育てたい」と話す有度第二小学校の松平勝徳校長先生。「ウォークラリーは子どももスタッフを勤めたのですが、子どもたちなりに地域のこと、これからのことを考えるきっかけになったようです」と話す担当の勝又まち子先生。「考える犬」も内心良し良しと思っているに違いない。

「こうだったら良い、これではダメだ」と言う意見は言えても、なぜダメかということを考え、「そのためにはこうすれば良い」と言う具体案を持つことはなかなか難しいものである。そういった意味でこのウォークラリーは小学校の子どもも、大学生も、地域の大人たちも、世代間の交流を実現し、地域のことをより具体的に考える良い機会になったのではないだろうか。商店街、学校、子供と保護者、世代や立場を超えた街づくりのシンボル、それが「考える犬」なのだろう。

ちなみに、この考える犬には50以上のミニチュアの仲間がいて、そのいくつかは草薙商店街や県立大学近辺のあちこちに置かれている。それらを見つ草薙の街を散策するのも面白そう。

とりあえず、待ち合わせは「考える犬の像前」で。さて、待っている間、考えよう。



ミニチュアの考える犬

コラム

毎日がウォークラリーのまち

— 草薙での試み — 静岡県立大学教授・草薙ネット編集長 小島茂氏



小島茂氏

2ヶ月ほど前、Aさんという男性から突然メールが届いた。県立図書館に行って、偶然「草薙ネット」を見つけ、ウーム、大学発でこういった情報誌もあるんだ、長年草薙に住んでいるのに知らなかった。近々立ち上げる地元愛好会で紹介したい、また会設立にさいしてアドバイスをほしい、ついでには是非会いたい、という内容だった。

あいにく体調がよくなかったので、代わりに魚竹寿司店を紹介し、草薙ネットやまちおこしについて店長にたずねてほしいと返事した。Aさんは会立ち上げの帰途、早速、店に立ち寄ったようで、話を聞いて大変勉強になったという感謝メールを頂いた。

そこで今度は、考える犬石像に行って隣の立て看板に書かれていることを実行してみたい、また考える犬のハンカチやクッキーを子供たちにあげると大喜びされると伝えたところ、Aさんは早速、喫茶店アゴラでハンカチを、洋菓子店ロンボンでクッキーを買い求め、それをもって研究室を訪れたいというメールが送られてきた。



ロンボン:考える犬クッキー



アゴラ:考える犬ハンカチ

Aさんがウォークラリーした店



魚竹寿司



イタリアレストラン サレベベ



明(あき)

まだ体調が思わしくなかったので、代わりに、草薙ネットの学生とのイタリアレストラン・サレベベでの昼食会をセットした。Aさんは恐縮しつつも結局は出かけ、食に舌鼓し、上機嫌だったらしい。その後も、他の学生や店やまちのスポットを紹介することに出かけたようで、毎回、報告と感謝メールが返ってきた。地元愛好会の宴会も紹介した明という創作料理店で行われ、盛り上がり会員からも感謝されたようだ。

Aさんはメールのやりとりを通じて、いろいろな人と出会い、いろいろな店にかけ、まちを再発見し、数々の感動体験をした。草薙の地域商業にも貢献した。では、なぜAさんは、見知らぬ私の提案を嬉々として実行したのか?実は、それが一種のウォークラリーだったからだ。

ウォークラリーは指令によって動く報奨ゲームである。草薙ネットでは、考える犬石像を始点にこれまでに5回のウォークラリーをおこない、毎回、参加者たちは興奮した。ただ、年に1、2度しかない。もし毎日がウォークラリーのまちができればどんなに楽しいことか、どんなに地域の活性化に役立つか、そのための仕掛けづくりを、今、草薙で試みようとしている。

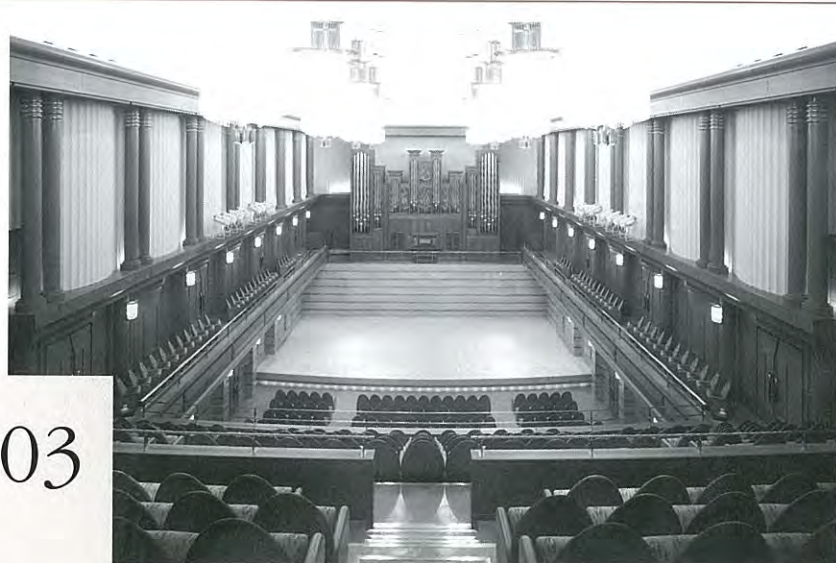


静岡音楽館AOI

静岡音楽館AOIは、JR静岡駅北口に静岡中央郵便局との合同建物として建築され、1995年5月に開館しました。2868本のパイプを持つオルガンを備えた618席の中規模ホールです。

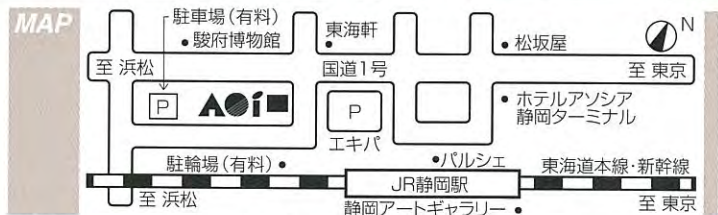
AOIの自主企画によるコンサートや講座などを年間を通じて開催しています。一般のご利用も多く、アクセスしやすい好立地、ホールの音響の良さは定評をいただいでおり、静岡の音楽の発信基地として定着しています。

2003年10月14日に、地下駐車場「エキバ」がAOIの地下につながり、雨の日でも濡れずにコンサートに来ることが出来ます。



静岡音楽館AOI コンサートシリーズ 2003

- 10/2 J.S.バッハ:ブランデンブルク協奏曲
19:00開演 全指定 ¥4,000
- 10/29 ヴェルサイユの舞踏会
19:00開演 全指定 ¥4,000
- 11/7 カール・ライスター クラリネット・リサイタル
19:00開演 全指定 ¥3,500
- 11/29 響宴・夢の九重奏
19:00開演 全指定 ¥3,500
- 12/12 須川展也&トルヴェール・クワルテット
19:00開演 全指定 ¥3,000



お問合せ 静岡音楽館AOI 054-251-2200
〒420-8691 静岡市黒金町1-9
<http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp> 静岡音楽館 AOI

Hotひとききコンサート

Hotひとききコンサートは、幅広い市民層に無料で質の高い音楽を鑑賞する場を提供し、生演奏の良さを体験していただくこと、毎月3日間総合事務所の一階ラウンジで開催しているコンサートです。クラシック、ジャズはもちろん邦楽、ポップス、シャンソン、民族音楽、浪曲、落語など幅広い内容はこれまでも市民の皆様から御好評を頂いております。

お問合せ (財)静岡市文化振興財団
TEL.054-255-4746
〒420-0031 静岡市呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階

紅葉山庭園ライトアップコンサートのお知らせ

今年度もHotひとききコンサートの野外版として、静岡市駿府公園内紅葉山庭園にてライトアップコンサートを開催いたします。

- 10月17日(金)
静岡交響楽団(金管五重奏)
 - 10月18日(土)
ダンス・スペース
(モダンダンスと生演奏)
 - 10月19日(日)
独奏(和楽器演奏)
- 開場 / 18:00
開演 / 18:30・19:45



From Editor

編集後記

- ◆オシャレな街のイメージだけど、意外なほど歴史の深い街でした。
- ◆緑と坂が印象的な街。たくさんあるスポットから、今号では、カフェと公園に注目してみました。ぜひ、お散歩してみてください。
- ◆皆様がお持ちの情報をもとに取材をしたいと思えます。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

参考文献

- 『日本の伝説』 教育図書出版
- 『月刊いいあんばい No.16』 静岡市観光協会清水支部発行
- 『山の神さん』 伊藤弘氏
- 『清水の遺跡2』他 静岡市社会教育政策課

写真・資料提供

- 浅井博氏
- 高木繁氏
- 堀場弘氏
- 堀場正司氏
- 静岡県立美術館
- 有度第二小学校
- 静岡鉄道株式会社
- De ja VU

静岡文化情報「街かど」第22号

- 発行(年2回)
平成15年9月
- 編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
E-mail:bunshin@chabashira.co.jp
<http://www.chabashira.co.jp/~bunshin/>

- 印刷
株式会社バビア中央
静岡市小籠一丁目62番18号

楽寿の園 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

最新鋭の特養が完成



平成16年
3月
完成予定



特養楽寿の園
増改築工事
完成予想図

28年間、地域福祉の総合拠点として役割を担ってまいりました楽寿の園が、ご利用者の皆様により一層快適に過ごしていただくため、このたび増改築工事(全面建替)を行い、装いも新たに一新致します。新しい施設は8階建てで眺望が素晴らしく海や安倍川が一望でき、地震に対しても不安のない最先端の基準に適合した建物です。多くの個室ユニットケアを導入して、ゆとりのあるスペースで心癒されるアカデミックで高品質な住まいを目指します。

社会福祉法人 楽寿会 楽寿の園高齢者総合福祉エリア
〒421-2115 静岡市与左衛門新田74-6 TEL 054(296)1111 FAX 054(296)1113
URL <http://www.rakuju.or.jp/>

静岡けいりん 00

高ぶる魂

第51回

平成16年 3/23~28 開催!!

日本選手権競輪

静岡競輪場

電話投票番号 38#

おふたりの夢がかなう アソシアのホテルウェディング

360度ガラス張りのテルミナ・アイで行われる「アトリウム挙式」。
クリスタルアートが輝く祭壇で神に誓う「チャペル挙式」。
そして、テーマ別にコーディネートされた披露宴会場の数々・・・。
ホテルアソシアはお二人にぴったりのウェディングをかなえます。



ホテルアソシア静岡ターミナル

〒420-0851 静岡市黒金町56番地(静岡駅北口) Telephone:(054)254-4140<ブライダル課>
【ホームページ】<http://www.associa.com/sth/>

開業20周年記念プラン

エクセラス アニバーサリー

80名様 145万円(税別)

<2004年3月までの挙式>

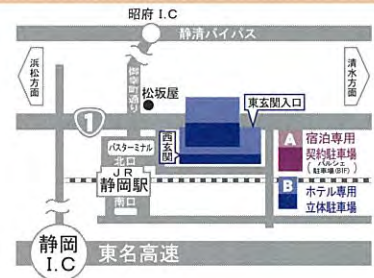
★チャペル挙式・神前挙式ともに
ホテルよりプレゼント!

<プランに含まれるもの>

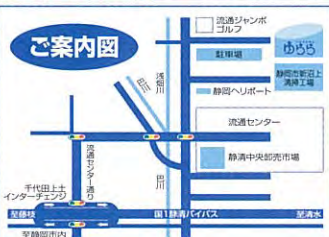
料理(洋風懐石・特選料理・日本料理・中国料理)、飲み物(フリードリンク)、席料、控室料、ウェディングケーキ入刀料、サービス料、設備料、メイン装花、卓上花、贈呈用花束、司会者、キャンドルサービス、写真3カット(アルバム2冊)、チェアカバー、招待状、席次表、芳名帳、新郎新婦美容着付け、介添料

<プラン特典>

- ・新郎新婦の当日もしくは前日のご宿泊無料
 - ・ご両親の当日もしくは前日のご宿泊50%割引
 - ・新郎新婦様に記念品贈呈
 - ・ご希望により新婦様用料理プレゼント
- ほか



おいでよ!ここはいつでも、 健康な楽園!!



P 350台 ●開館時間/10:00~22:00(日・祝日の9:30~20:00まで)
●休館日/毎週火曜日※業務清掃工場の法定点検中は約2週間の閉館となります。

〒420-0905 静岡市南沼上1379-1 TEL:054-263-3456

車利用
東名静岡ICから約12km(約30分)
※SBS通りを東へ直進、行き止まりにあるカーブを曲がり長沼大橋を経て、流通センターのからご案部ください。
東名清水ICから約12km(約30分) JR静岡駅前から約8km(約20分)
静岡バスバス千代田上土ICから約2km(約5分)

バス利用
JR静岡駅北口 こども病院線(2番線)にて乗車、流通センター入口で下車。
(流通センター入口より無料シャトルバス運行)

東静岡駅北口より
無料シャトルバス 東静岡駅発 9:20 10:20 12:20 14:20 16:20 18:20

区分	大人	子供 3歳以上 中学生まで
全日使用券	1,200円	600円
夜間使用券(18時以降)	600円	300円
回数券(6回分)	6,000円	3,000円
団体使用券(15人以上)	800円	400円
3月使用券	9,000円	4,500円
年間使用券	25,000円 18,000円	12,500円

1日使用
期間使用
回数使用

「ゆらら」は、隣接の清掃工場の余熱を利用した県内初のエネルギー循環型の温浴施設です。